

年末の市役所事務  
市役所のしごきは、各官公庁と  
同じく、十一月十九日から一月  
三日までの六日間、年末・年始の  
休業となりますが、次の窓口はそ  
れぞれの期日を執務します。  
▽印鑑・諸証明・埋火葬許可・霊  
きゅう車使用・国民年金事務・  
国保資格取り扱いは十一月三十  
一日午前中まで。ただし埋火葬  
許可・霊きゅう車使用許可は、  
当直者扱いで一月一・二・三日  
も行ないます。(火葬場は一月  
一・二日は休業)  
次のところは、カッコンの期日  
を休ませていただきます。  
▽市立図書館(十二月十七日か  
ら一月五日まで)▽法律相談(十  
二月十八日・二十四・二十五日)  
▽心配電話相談(十二月十七日  
一月二・三・十七日)▽児童  
遊園(十二月十九日から一月一  
日まで)▽内職相談(十二月十  
六日から一月五日まで)▽育児相  
談(十二月二十五日)

# 袋に詰めて収集日の朝

ガラス・あきカンなどは別の日に

ゴミを出すときは……

年末・年始の  
ゴミ

「普通のゴミは、口をあらわ  
なでしぼり、ご近所まで一  
定の場所へ収集日の朝八時三分  
までに届けてください。集積の場  
所は何日も前から出ているのを  
見かけますが、不衛生で町の美観  
を損ねる近所の迷惑になります。  
最近、ゴミ容器に、リンゴ箱を  
利用される家庭がありますが、く  
さやとけで作業員がよくケガを  
します。また重くて持ち上げられ  
ないような大きな容器も、作業能率を  
悪くしますので遠慮ください。」

ご家庭で  
守っていただ  
きたいこと

生活水準の向上につれ、一人当たりが出すゴミの量は、年々増加しています。これを完  
全に処理していくことは、現在、わが国の都市がかかっている共通の悩みとなっています。  
現在、市が行っているゴミ収集人口は十七万人、四万五千世帯で、これは全市の八〇%に  
あたります。収集方法は週一回持ち出し制で、ゴミのほかに灰・キケン物は二か月に一回、とく  
に繁華街では月二回定期的に収集処理しています。こうして集められるゴミの量は日に約百  
三十三トン、一年間では三万九千三十三トンのほかに、このゴミは、亀泉町の清掃工場に運ばれ、  
焼却はもとより、みなさんが眠っている夜間も、職員が二交代で焼却しています。  
これから年末・年始にかけてはゴミの量が多くなる時期、この完全処理に市では全力を  
あけて努力いたしますので、みなさんも次のことを守っていただき、スムーズなゴミ処理  
ができますようご協力ください。

「お勝手から出るぬれたゴミ  
燃やさないで、よく水を切っ  
て、小さなビニール袋などに入れ  
てから、大きい袋に入れるよう  
にしてください。」

「袋の中に入れてはいけないもの  
集めたゴミは袋ごと焼却しま  
すので、石ころ、どろ、灰、ガラス  
かけ、あきカン、あきカン、針金  
など燃やさないものや、爆発するお  
それのある電球、ヘヤスプレーの  
缶など、絶対にふたのゴミといっし  
よの袋に入れないでください。こ  
のような不燃物は、キケン物と  
して別に集めます。」

「木の枝や古畳などは  
コサ切りや、せんだした木の枝  
は、長いままでは焼却炉にはい  
りませんので、一メートルぐらいに  
切って束ねてください。古畳もそ  
のままでは炉には入りませんので  
一枚を二つぐらいに切ってください。  
そのほか、ゴミ収集のとき、  
道路工事などで収集車が行けな  
いときは、車の通れるところまで  
ごみだうでも出してください。」

「キケン物はこのように  
ゴミと同じように袋に詰めて、  
口をしっかり締め、収集日の朝決  
められた場所に出してください。  
収集日前に出しますと、危険なう  
え、町の美観を損ねます。おた  
がいに注意しましょう。」

「市では現在、二千六百台の収集車  
と、八十四人の作業員で収集を行  
なっています。収集対象は、全市  
域の八〇%、十七万人、四万五千  
世帯ですが、できるだけみなさん  
の要望にこたえて、収集地域をひ  
ろげるよう努力しています。」

「市は同様に、決まった曜日集  
めることを計画しています。決定  
でもうしばらくお待ちください。」

## 毎日トラック90台分

五年前にくらべ一・二倍に

職員の二交代制で

夜間焼却も

集められたゴミは、亀泉町の清  
掃工場に運ばれ、焼却炉によつて  
焼却されます。



清掃工場の焼却炉では、1日130トンの  
ゴミが昼夜絶え間なく焼かれています



亀泉町の清掃工場  
とゴミ収集車

衛生的に処理されます。この焼  
却能力は、固定炉の八時間、干ト  
ンと、半機械炉の八時間四十ト  
ンの計六十トンです。一日約百三  
十三トンを焼くためには、職員が二交  
替制で深夜まで作業がつづけられ  
完全焼却がされています。ゴミの  
ほかに燃やさないキケン物は、埋立  
て処理をしています。

一億円かかる

一年間のゴミ処理費

「市がゴミを処理するため  
に使うお金は約一億円です。これ  
を一世帯当たり割ってみると、  
二千三百円(収集のために一千四  
百五十円、焼却のために八百五十  
円)がかかっていることになりま  
す。」

年末のゴミ収集日

「年末12月30・31日は平常ど  
おり行ないます。  
▽年始1月1・2・3日は休  
みです。ご迷惑でしょうが次  
週までお待ちください。」

「1月15日(成人の日)は祝日の  
ため休みですが、この日の収集  
に当たる地区を、次のように変  
更して行ないます。」

- ①1月14日(火)に行なうこ  
ろ 城東町一・五丁目
- ②1月16日(木)に行なうこ  
ろ 平和町一・二丁目、広瀬  
団地
- ③1月17日(金)に行なうこ  
ろ 六供町、上佐馬住宅、南  
町、田沼南分町の区域

## 灰・キケン物集収日 <1月>

| 月  | 火  | 水  | 木  | 金  | 土  |
|----|----|----|----|----|----|
| 1  | 2  | 3  | 4  | 5  | 6  |
| 7  | 8  | 9  | 10 | 11 | 12 |
| 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 |
| 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 |
| 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |
| 31 |    |    |    |    |    |

## ごみ集収日

| 月   | 火   | 水  | 木  | 金  | 土  |
|---|---|--|--|--|--|
| 千代田町1.2.3.4.5丁目<br>日吉町1.2.3.4丁目<br>朝日町1.2.3.4丁目<br>天川町(旧天川町を含む)<br>朝倉団地<br>朝倉善住町<br>朝倉後古丘<br>朝日相木<br>朝小江<br>前箱田 | 若宮町1.2.3.4丁目<br>三河町1.2丁目<br>文京町で旧高田町・天川原町の区域<br>天川大島町<br>荒牧町<br>野中町<br>緑が丘町 | 平和町1.2丁目<br>城東町1.2.3.4.5丁目<br>46・47六供町<br>上佐馬住宅<br>南町で旧宗市分町の区域<br>広瀬団地 | 昭和町1.2.3丁目<br>南橋町<br>青柳町<br>下小出町<br>大手町1.2.3丁目<br>表町1.2丁目<br>南町で旧40・41紅雲町の区域<br>紅雲町1.2丁目<br>青梨子住宅<br>総社町全域 | 岩神町1.2.3.4丁目<br>敷島町<br>国領町1.2丁目<br>南町で旧42・43前代田町・市之坪町の区域<br>三保町<br>西幸町<br>幸下上<br>上北代<br>利根 | 住吉町1.2丁目<br>本町1.2.3丁目<br>石倉町<br>江木団地<br>元総社町<br>大友町<br>鳥羽町 |



# ゆくえ

## 第2期財政事情の公表



暮らしよいまちに

老人福祉センター管理 456万円

国保会計への繰出 2,746万円

認可保育所助成 750万円

児童遊園建設補助 100万円

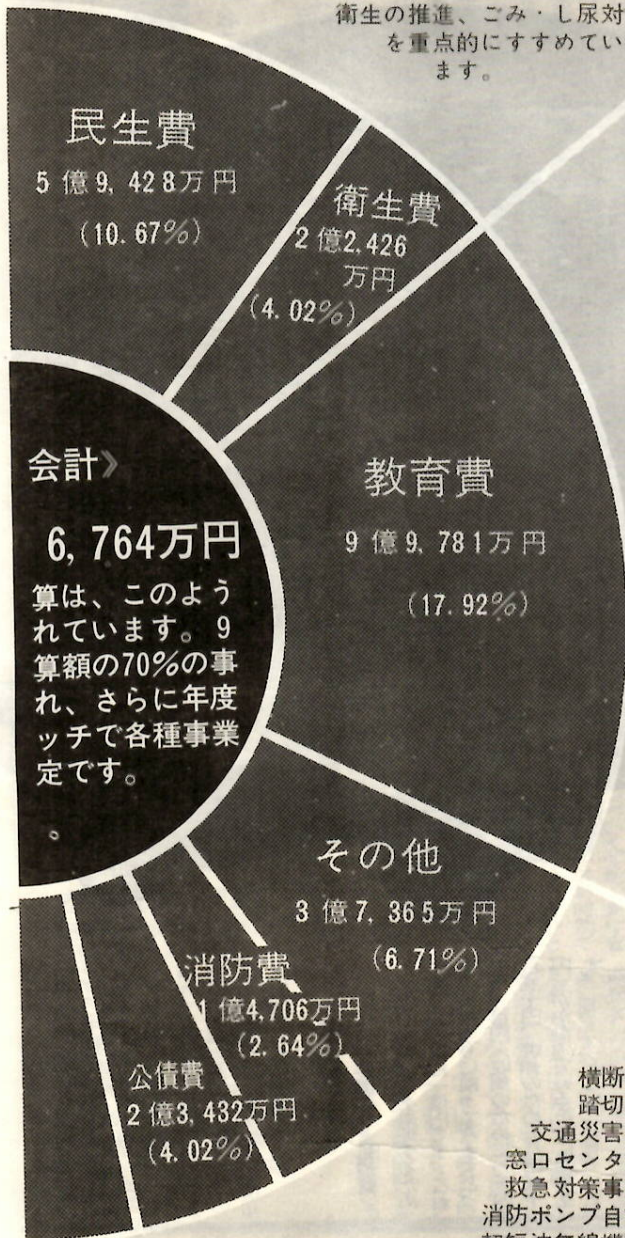
生活保護扶助費 2億3,476万円

各種予防対策事業 1,865万円

亀泉霊園整備事業 590万円

ごみ収集タンク購入 260万円

そのほか各種福祉事業の推進、環境衛生の推進、ごみ・し尿対策を重点的にすすめています。



って開設された窓口センターも、短縮されました。

小学校増改築 1億6,302万円  
 小中学校施設補修 3,080万円  
 校庭の防じん対策 160万円  
 校具教具設備の充実 2,594万円  
 体育館(3校)プール(2校)新築 5,636万円  
 PTA負担軽減のための施設整備など 1,227万円  
 小学校新設用地購入 2,514万円  
 養護学校・幼稚園増築 385万円  
 文化財保護事業 939万円  
 工業短期大学費 8,290万円

そのほか、体育・青少年育成・図書館・公民館・社会教育などの事業に使われています。

横断歩道橋新設 1,100万円  
 踏切り道の改良 622万円  
 交通災害共済事業分担金 200万円  
 窓口センターの改装 3,250万円  
 救急対策事業 200万円  
 消防ポンプ自動車購入 510万円  
 超短波無線機購入 210万円  
 消防ホース・器具購入 375万円  
 消防分署(利根西)購入 160万円

交通対策・消防対策を中心に、市民生活の安全をはかるための各種事業を推進しています。

条例の定めるところにより、昭和43年度第2期の財政事情を公表します。

★ 本市は、昭和43年度を初年度とする10か年総合整備計画をたて、北関東30万拠点都市の、実現を目標に、市民の行政需要にじゅうぶん対処しながら、明るく住みよい前橋の建設に努力しています。

★ この初年度にあたる昭和43年度は

- ① 秩序ある都市づくり
- ② 調和のとれた産業の育成
- ③ 幸せな暮らしづくり
- ④ 健全な人づくり

この四つの基本方針を中核として予算を編成し、事業をすすめています。

★ ここにお知らせする「税金のゆくえ」は、みなさんの家計に密接なつながりをもつ、22万市民の家計簿です。

★ 4月にお知らせした「予算概要」とあわせて、もう一度、市の予算・財政がどのようなになっているか考えてみましょう。

## 特別会計予算

国民健康保険

8億6,032万円

収入率44.5%  
支出率32.6%

用品調達

2億6,600万円

収入率37.6%  
支出率48.0%

中小企業合理化資金貸付

3,123万円

収入率47.3%  
支出率0%

食肉処理場

1,976万円

収入率46.1%  
支出率38.7%

中央児童遊園

1,245万円

収入率46.2%  
支出率36.1%



## 公営企業特別会計

水道事業 5億5,190万円  
 下水道事業 5億6,767万円  
 農業共済事業 1億8,153万円

公営企業会計については、10月1日付広報でお知らせした通りです。

## 「財政・予算」ということば

ご家庭の「家計簿」と同じです

わたしたちは、日ごろ「財政」や「予算」ということばを、しばしば目や耳にします。何となく、とっつきにくいことのように思われがちですが、これは市民のみなさんにとって、ひじょうに重要なことなのです。

わたしたちの家庭には、生活のための家計があります。また、会社には会計があるように、国や地方公共団体(都道府県や市町村)には、予算というものがあります。この予算を中心とした国や地方団体の活動を、一般的に「財政」と呼んでいます。

国・県・市町村は、わたしたち個人の力、活動にまかせてはできない仕事をするために組織されています。たとえば台風災害の復旧、治安の維持、教育の振興、道路、上下水道の普及、社会保障の充実などの仕事で、その目的です。

もちろん、これらの仕事は国や県・市町村とが、それぞれ決められた分担によって行ないますが、このような公共的な仕事を行なう

ためには、たくさんのお金がかかります。

このお金は、国の場合は国民から税金を納めてもらったり、タバコや酒の専売益金や国債を発行したりして集めます。

市の場合も、みなさんからの税金が主体となり、国からの支出金・使用料や手数料・財産収入・諸収入・市債などによって、財源を得ています。

このように、国や地方公共団体が、一方で費用を払い、他方でその財源を集める仕事を「財政」といっています。

さらに「予算」は、こうして集められたお金を、いろいろと考えながら配分し、各事業を有効的に実施していくためのしくみで、各家庭の「家計簿」と同じような意味で、たいせつなことです。

みなさんも、このページをよくお読みになって、みなさんの市の「家計簿」を、おうちのかたがたで話し合ってみましょう。

正しく育つまちに

明

る

い

豊

か

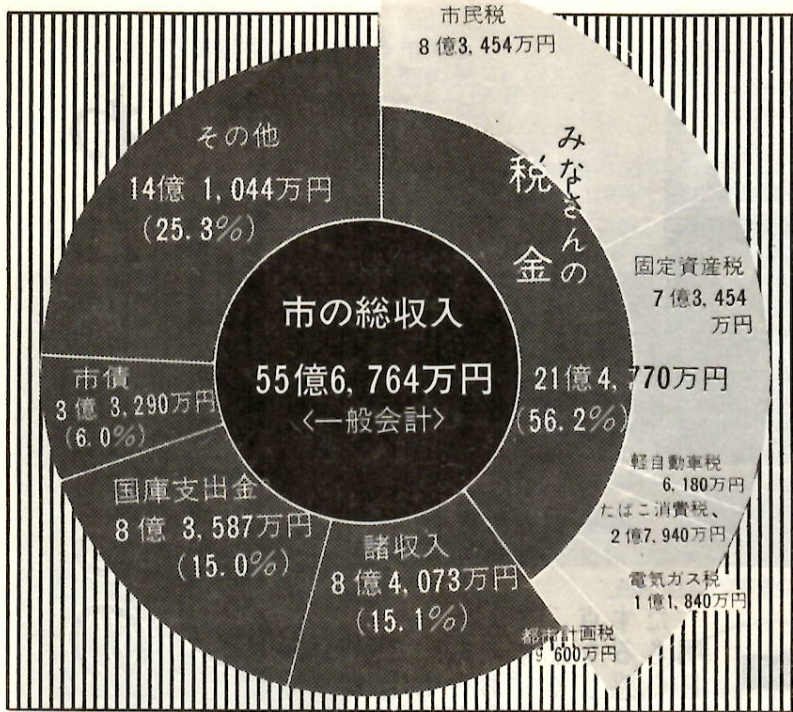
な

ま

ち

に



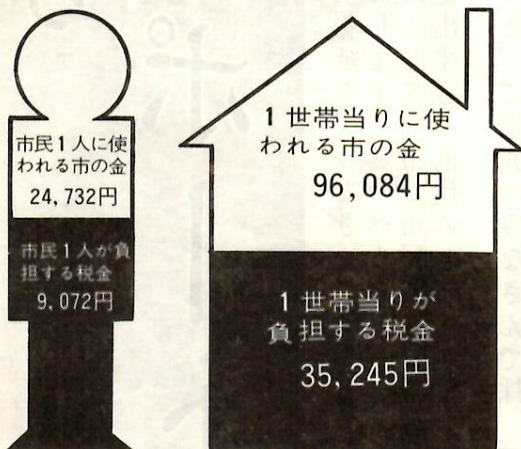
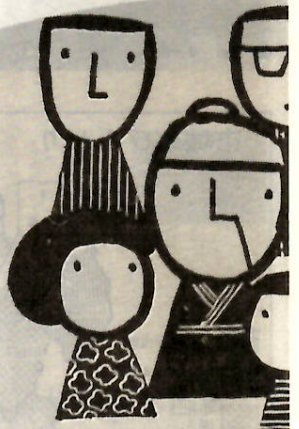


# 税金の

昭和43年度



密集した町なみを整備し、狭い道路や駅前広場をひろげ、近代的なまちに作りかえる事業が積極的にすすめられています。  
(完成した中央都市改造事業)



## 整

道路や橋の新設改修工事 2億8,976万円  
土地区画整理事業 7億1,171万円  
(東部地区・西部・川原・広瀬・北部・大友・荒牧地区)

都市改造事業 1億5,083万円  
(新前橋地区・前橋駅南口・日吉町地区)

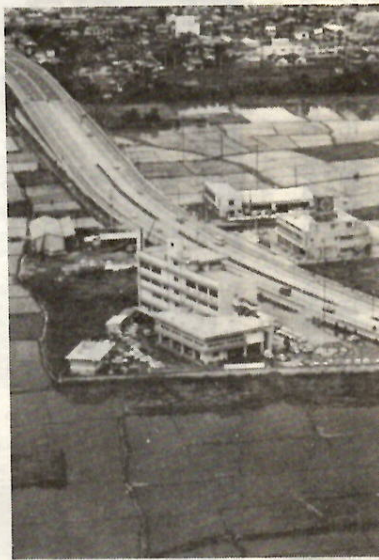
街路事業 2億6,645万円  
(東部環状線・南部大橋線・総合グランド東口線・大友西通り線・萩町三俣線の改良と舗装)

公園事業(整備と改良) 6,948万円  
住宅事業 2億8,963万円

(公営住宅153戸建設・住宅建設用地購入・改良住宅40戸建設など)

本年度の予算の重点施策の一つとして積極的に事業を推進しています。

た  
ま  
ち  
に



道路は都市の動脈。  
(高前バイパス・元総社付近)

## 栄

え

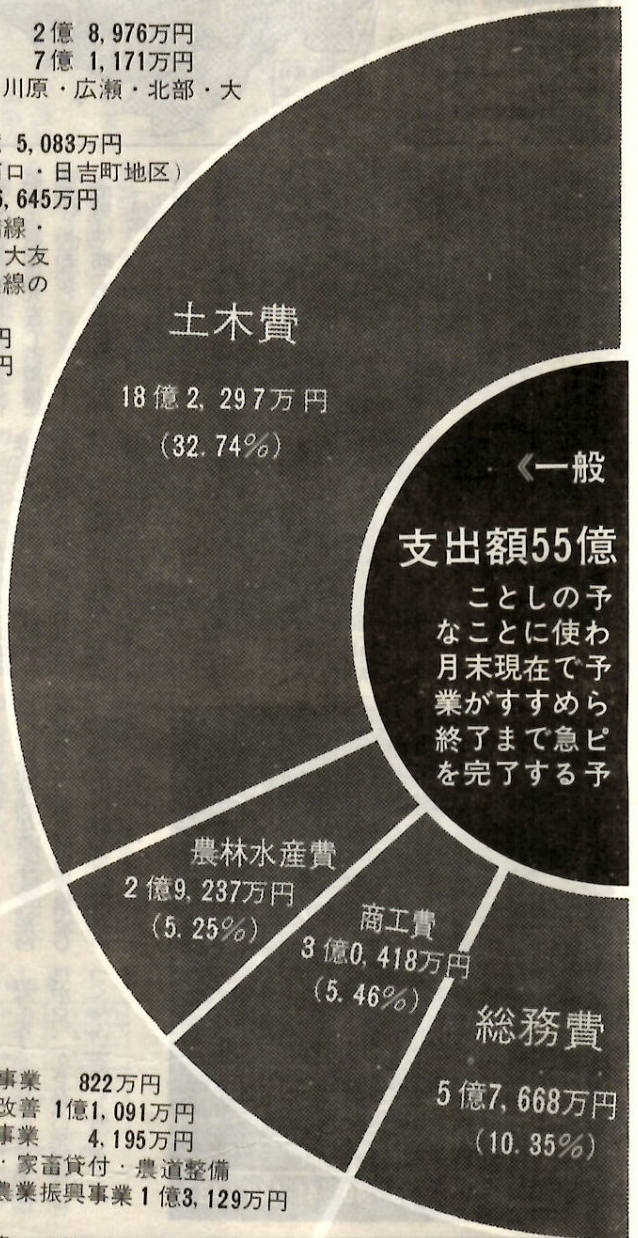
あ

る

ま

ち

に



ことし9月、市民の便利をはか  
届や、証明のための待時間

市で所有している

## 財 産

市長管理の財産

教育委員会管理財産



140,026 m<sup>2</sup>

182,608 m<sup>2</sup>

土 地



916,616 m<sup>2</sup>

670,267 m<sup>2</sup>

山 林



980,426 m<sup>2</sup>

23,993 m<sup>2</sup>





# わたしたちのまち 前橋のレポート

**市民の声**

この企画は、城東町三丁目角田勝蔵さん、朝日町二丁目江原泰子さん、西片貝町塩野一さんをはじめ、多数の「人たちの声」の「市民の声」のご意見と、さきに実施した「市政調査」からの「前橋全体の概要の紹介」という希望により編集しました。

ことし最後の広報紙を、みなさんのお手もとにお届けいたします。このページは、この一年のまとめとして、市が市民のみなさんのお茶の間に提出する『前橋のレポート』です。

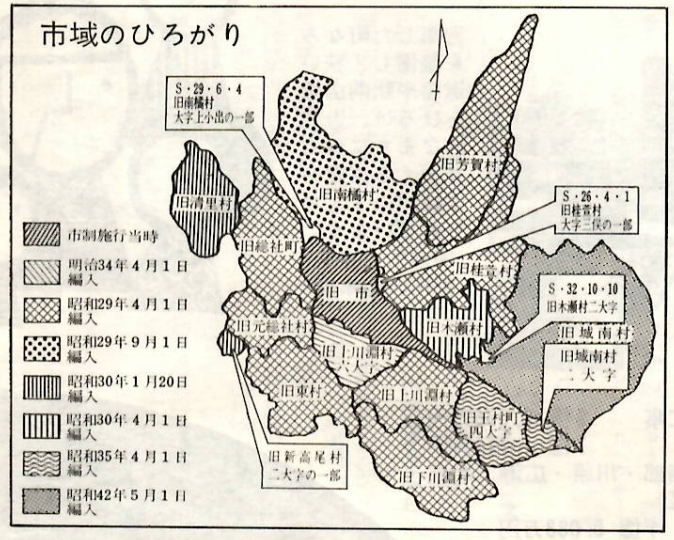
よくお読みのうえ、ご家族のみなさんで採点をしてください。また、このレポートに関する感想やご意見がありましたら、お寄せください。

明日からの市政への糧にしたいと思います。

## 人口面積

### 全国で五十二位の人口

市の面積 市制施行当時の19倍に

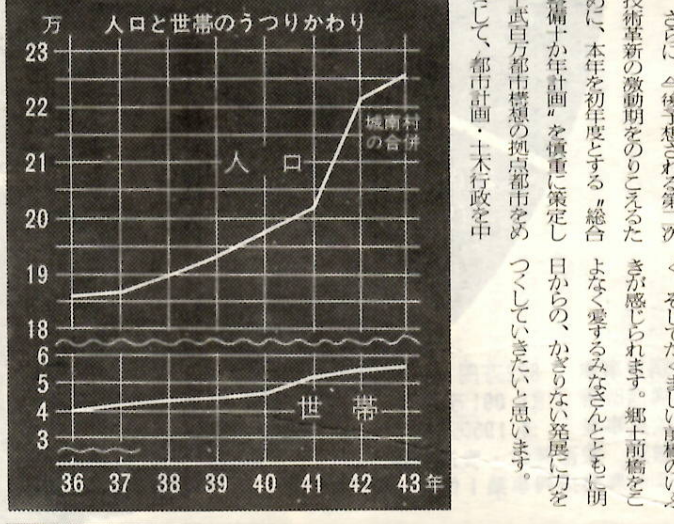


わたしたちのまち前橋は、日本列島のほぼ中央、関東の北端に位置し、自然の風光と美しい環境に恵まれています。

前橋は、郷土の詩人萩原朔太郎が「帰郷」の一節に「また州の山は見えずや」と詠嘆の思いをこめて、赤城・榛名の山々を背景に、古くから生糸（いし）の町として栄え、横浜開港以来海外にまでその名を知られました。

明治三十四年四月一日の市制施行以来、市域の拡大にともない、消費税率の引き上げ、市制施行当時の三万人から、昭和四十二年の七万人へと、この七十六年間に七倍の人口増加を遂げました。

この間、「明るく住みよい町づくり」と「技術革新による新しい社会情勢に対応する都市づくり」を念頭に、とくに昭和四十二年



**前橋のさんぽみち**

**水の都**

利根川と広瀬川

遠く上越の峰々から流れてくる水は、ついに大利根の流れとなって太平洋にそそぐ。この長い旅路をたどるひととき、前橋市を二つに割ってとうとうと流れる。

利根川は、前橋の母なる河である。あるときは歴史をつくり、あるときは産業をおこし、あるときは詩情をかもして絶えまない。

また、利根の水は市街地を貫流する広瀬川、桃木川にとり入れられ、市民の日々の生活のなかに結びつき、とくに広瀬の豊富な清流は、人びとの情緒を誘っている。

白鳥の群れを浮べた「さちの池」、松の緑をうつす敷島公園の池、そして小坂子・江木・五代などに点在する多くの沼、東の地には五料沼が静かな景観をみせている。

|        |  |
|--------|--|
| 市の位置   | 北緯36度23分・東経139度04分   |
| 市の面積   | 147.31km <sup>2</sup> 東西18.0km、南北19.3km                      |
| 市の人口   | 225,111人(男108,875人、女116,236人) 57,945世帯                       |
| 市の出生   | 出生2,929人 死亡1,448人 転入10,515人 転出7,990人                         |
| 市の教育施設 | 幼稚園24 小学校28 中学校16 高校10 大学3                                   |
| 市の図書館  | 蔵書数12万冊 年間利用者数120,464人 128,005冊                              |
| 市の立寄所  | 市立18 私立5   |
| 市の診療所  | 病院13 一般診療所194 歯科診療所66  |
| 市の商店   | 4,632店 従業員数22,076人(42年)                                      |
| 市の市場   | 1,682 従業員数26,656人(42年)                                       |
| 市の金融   | スーパーマーケット32 市場7  |
| 市の水道   | 銀行14 相互銀行3 信用金庫11 信用組合1 農協14                                 |
| 市の電気   | 年間20,477,443m <sup>3</sup> 1日最大82,507m <sup>3</sup> 1日1人303ℓ |
| 市のガス   | 電灯798.11kW 電力1407,69kW(42年中)                                 |
| 市のたばこ  | 4,038,024立方メートル(42年中)  |
| 市の電話   | 4億9,177万本(42年中)  |
| 市の郵便   | 単独・共同17,818 公衆650  |
| 市の道路   | 発送2,051万通 配達2,122万通(42年中)                                    |
| 市の公園   | 国道24.3km 県道95.9km 市道1,914km                                  |
| 市の住宅   | 27園 72,895m <sup>2</sup>                                     |
| 市の営団   | 市営1,855戸 県営640戸 公社617戸                                       |
| 市の下水   | 323.2ha 対象10,479戸 水洗4,302戸                                   |
| 市の気象   | 1,013万人(42年中)  |
| 市の雨量   | 消防署員122人 団員1,010人 車両89台 警察官231人                              |
| 市の風速   | 最高35.5℃ 最低6.2℃ 平均13.4℃(42年中)                                 |
| 市の気温   | 降水1,246.4ミリ(年平均) 風速3.9メートル(平均)                               |

## 数字で見る前橋



万葉のむかしから、上毛の地に詩歌の国と呼ばれる伝統を持っていた。時は流れ、現代となっても、わたしたちのまじり前橋には、この風光とながに多くの詩人たちを生みだしている。そして日本の近代文学に不朽の名をのこめた特異な詩人たちの記念碑が相ついで建てられている。

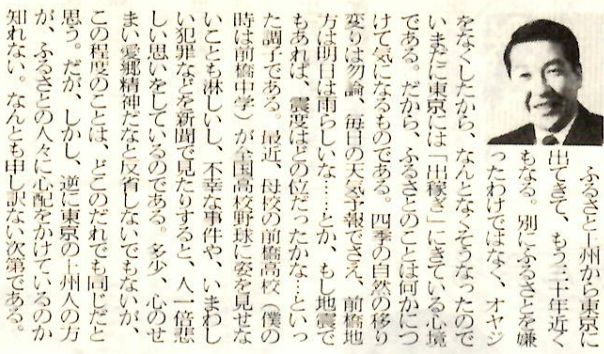






## ことしの 《市政歳時記》

- 1月 青柳大師祭(3) 初市(9) 成人祝(15)
- 2月 節分(4) 亀泉霊園管理事務所完成(21)
- 3月 木瀬中・荒砥中体育館落成(5) 敷島小・城東小体育館落成(6) 定例市議会(7~21) 中学校卒業式(16) 小学校卒業式・曲輪町都市改造事業完成(27) 老人福祉センター落成(29)
- 4月 児童遊園さくらまつり(1~15) 下長磯の三番そう(15) 農免道路完成(24) 前橋植木市(5~7)
- 5月 第5保育所落成(1) 伸びゆく子どものつどい(3) 赤城大鳥居の由来碑除幕(15) 東公民館改築落成(17) 明太郎忌のつどい(19) 臨時市議会(20)
- 6月 建築指導係新設(1) 嶺小落成(17) 定例市議会(20~22)
- 7月 交通災害共済制度発足(1) 参院選(7) 前橋家具見本市・駒形小プール完成(9) 総社小プール完成(10) 知事選(14) 臨時市議会(31~8.9)
- 8月 勤労者美術展開く(1) 空堀慰霊祭(5) 上川開小体育館落成(22) 短大増築落成(30)
- 9月 市に窓口センター開設(2) 問屋センター起工(3) 定例市議会(16~21) 前橋中央駐車場完成(21) 市民スポーツ祭総合開会式(25)
- 10月 岡毛線複線電化開通(1) 前橋まつり(15~17) 桂萱小改築起工式(19) 筑井小・二之宮小プール起工(21) 岩神小・桃井小体育館起工式(26)
- 11月 国保総合表彰式(5) 市内小中学校児童生徒音楽会(19) えびす講(20)
- 12月 さくら500本記念植樹(6) 定例市議会(9~20)



小林桂樹

東京の上州人

## まえばし

こし、前橋のバス会社に入社がきまつたとき、担任の佐藤先生が笑みながらおめでとうを言ってくれました。福島県から就職して、最初に驚いたことはカミナリでした。ふるさとで経験したものは、くらべものにならないくらいです。カラッ風は、これから冬にかけて経験するとして、微く移りかわる気象と、荒々しい四季の未来の変化こうした自然環境が、感じ易い上州ノ子気質をつくりだしているのではないかと、わたしなりに思っています。

でも、職業から毎日バスに乗って、たまたまのお客さんに接しています。遠くわかしのことばかりですが、今どきカチカチ天下なまじり表現は、全滅うかがわれません。みんな明るく、飾り気のない、そしてこまやかな人情味が感じられます。コバルト色に澄んだ空、スモッグもなく空気がきれい、利根川や赤城の風景も美しい。前橋へ住んで八か月間の印象です。

## 教民生

■社会福祉 市の福祉行政は、生活保護事業をはじめ、児童福祉・母子福祉・老人福祉・身体障害者精神薄弱者の援護など、社会福祉活動を積極的に進めているほか、自立更生のための資金の貸付、生活指導などを行なっています。

また、敷島公園北の松林のなかに、軽費老人ホームと老人福祉センター(四角開所)をつくり、静かな環境のなかで安心して暮らすために余生を楽しんでいただいています。

## 清潔な環境・保障ある暮らし

### 教育施設整備・積極的に努力

■清掃と衛生 人口の増加と市民生活の向上につれ、ゴミの処理とくみ取りは、ますますむずかしい仕事になってきています。

現在、ゴミの収集処理人口は七万人、世帯四万五千で、全市の約八〇%を過一回持出制によって収集しています。また、ゴミの分別は、一月一回収集し、さらに主の七割給付をはじめ、さらにこれを改善して、こし一月からは四人が収集し、さらに一人が世帯主、家族も、オール七割給

■国民健康保険と国民年金 万一千人をこえて、お互いの助けあいが、国民健康保険で、前橋市の国民健康保険事業は、二十九年四月からスタートし、四二をこなしています。

また、市では各種の予防接種(日本脳炎を除く)を無料で、結核、胃腸病、妊婦・老人などの検診、離乳食講習会なども行なっています。市では、千八百人から、世帯主の七割給付をはじめ、さらにこれを改善して、こし一月からは四人が収集し、さらに一人が世帯主、家族も、オール七割給



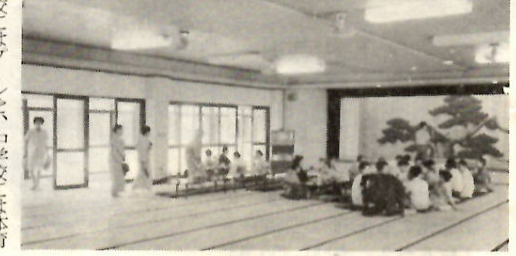
学校給食は、子どもたちにとって楽しい時間のひとつ

## 体育館・プール 全校に完成

■教育 子どもたちの教育は、前橋市のもっとも力を入れているもののひとつです。

現在市には、幼稚園三、小学校二、中学校二、高校一、短大一、養護学校一、合わせて四十七の市立学校があります。このほか私立・県立・国立を合わせると市内に百二十四の学校があり、ここに学んでいる児童生徒数は六万人、教員数は千七百人にのぼっています。

市では昭和二十三年から「小学校



校舎の建設も活発で、六中・七中・嶺小などの新校舎の新築をすすめています。

## 治安と消防

■警察 本市の警察は、石倉町のバイパスわきにある前橋警察署を中心に派出所九、駐在所二つがあり、警察官百三十一人とパトロールカー七台をもち、市内の治安にあたっています。犯罪については、こし十一月末までに五千件が起き、その七割が窃盗で、そのほか、暴行、傷害、詐欺などの順で発生しています。

■消防 市の消防は、本町二丁目にある消防署を中心に、天川大馬町の東分署、各地の消防団で活動しています。

消防署には百十人の常勤職員とポンプ車・はしご車・化学車・救急車を十台、合計配置されています。消防団は一千五百人の団員で組織され、十七団に十八台の近代装備を持った消防車が配備され、日夜、市民の安全・財産を守って活動しています。

## 研究指定校に 十四校を

■教育内容の充実には、各学校と積極的な協力関係がつけられています。市では本年度は十四校を研究指定校に指定し、各教科の研究指定校(二部指定)と、県指定(一部指定)として、子どもたちの能力と個性に応じた指導が行なわれています。

あえおくれの子ども教育にも力を入れ、養護学校をはじめ桃井小、中川小などに、上・中・小の児童が通学しています。

また、城南地区・南橋地区に給食センターもできています。

このほか、赤城の林間学校を利用して、児童・生徒の校外活動や、社会教育活動、公民館活動

## もっとくわしく 知りたい人のために

この「レポート」のはか、もっとくわしく知りたい人のために、市では「まえばし」のほかに、市「市勢要覧」などの刊行物をまとめたので、あわせてごらんください。

## 前橋の100年・ふるさとの歴史

前に関東の花をさすける」といった話が「後三河風土記」という本に出ていて、明治の建設期にまさに前橋は「関東の花」にふさわしい町となった。それをささえたのが製糸業である。

関東で四番目の市制施行

明治二十五年四月一日、全国で四十一番目、関東地方では東京、横浜、水戸に次いで四番目の市となった。当時の人口は三万一千余人、初代市長に下村善太郎が市民の要望を負って就任した。以来今日まで市となった七十七歳を迎えた。人間でいえば喜寿の年である。ことにめでたい年である。その喜寿の祝いに本年は明治百年の年が重なった。わけ、二重に意義深い年であるといえよう。

一府十四県 大共進会開く

明治三十七年、総社町植野の天狗岩用水を利用して、京都、日光、豊橋に次いで四番目という水力発電所がつけられ、早くも一部の家に電気が通じた。代が訪れた。明治四十三年秋には、前橋市始まって以来最大の行事といわれる一府十四県連合大共進会(写真)が開かれ、営々として築いてきた前橋の実力を全国の人びとに公開する機会を得た。このとき全市に電灯がつき、新しい文明の到来を告げたのである。

空襲で市街の八割を焼失

大正時代を経て、昭和九年の秋の陸軍特別大演習を坂の頂上として非常時体制に入り、昭和二十年八月五日、ついに空襲に遭い、大部分は焼失と化し、尊い人命を失ったが、市民は不死鳥のようになじみの中から立ち上がった。戦災復興事業が市民の絶大な協力で進み、災を転じて福とする近代的都市計画が着々と実施された。今日前橋の発展の一つの要因に、戦災復興のときの先見の明をあげる人の多いのもまた当然である。

大前橋へスタート

昭和二十九年大規模の町村合併が行なわれ、芳賀、南橋、桂萱、上川淵、下川淵、元総社、総社東の七か町村を吸収合併して近代都市へ出発し、同時に市庁舎の新築が現在地に完成し、あたらしい大前橋のスタートを切った。

それから十四年、県都にふさわしい都市づくりが順風に帆をあげるように一年ごとに躍進のコースをたどり、明かるい希望に満ちあふれている。明治の初期火事といえは数百年を焼失したが、消防施設の完備で大火は後を断った。井戸は姿を消し水道となった。このように市政は一人一人の上に革命をもたらし、これも百年間の発展に尽した無名の市民一人一人の功績のおかげであることを忘れてはならない。まえばし百年はその意味でまた市民の百年である。(市立図書館長・萩原進)



